

くさつ、村の古文書を知る

ある村の
庄屋の日記に記された、
皇女「和宮」の名前。
この日、いったい何が？
答えは裏面へ！

会期：令和3年3月13日(土)～5月16日(日)

休館日：3月15日・22日・29日、4月5日・12日・19日・26日・30日、5月6日・10日

会場：草津市立 草津宿街道交流館

主催：草津市・草津市教育委員会

くまづ、村の古文書を知る

「見、難しそうな「こもんどよ」の世界。でも読み解き方が分かれば、昔の人々の様子を生き生きと語りかけてくれます。身近な地域に残された歴史資料を読み解きながら、江戸時代の村の仕組みやくらしを紹介します。

2 村のくらしを知る

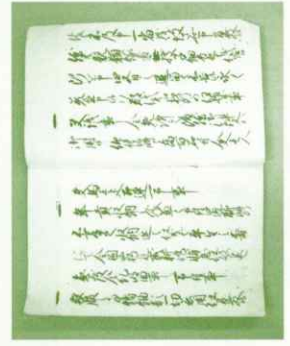
村役人が綴った記録には、日々のルーティンワークから時代を揺るがす大事まで、様々な出来事が記されています。古文書を通して、江戸時代の村のくらしを覗いてみましょう。



「御触書井二諸願書留帳」(矢倉村文書)

1 村のしくみを読む

江戸時代、村に暮らす人々は、領主の支配を受けつつ、「村役人」を中心とした自治を行っていました。村における決まりごとや土地支配のしくみ、そして年貢納人に関する資料を紹介します。



「御条目」(浪川共有文書)

3 村の記録を伝える

村の記録は、大切に保管され、時に書き写されて、代々継承されてきました。「古文書」はなぜ今、私たちの前にあるのか。その経緯を考えます。



「諸帳面道具類引渡シ帳」(矢倉村文書)

おもて面のこたえ

皇女和宮二行が草津を通過。村の人々も見回りなどに駆り出された！

上笠村(現草津市上笠町)庄屋・小森岩太郎の日記に見える、文久元年(一八六一)、皇女和宮の、第十三代將軍徳川家茂への降嫁に関する記述です。

和宮はこの日、草津宿・田中七左衛門本陣で昼食をとって守山宿で宿泊しました。この時、近隣の村々にも動員がかけられており、上笠村も「人足に残らず出し無人」とあるほど、かなりの人数が手伝いに出たようです。岩太郎自身も、二十一日・二十二日両日の夜に周辺の見廻りをしたと記しています。

傍線部：和宮様御下向廿日 御発駕廿日大津御過(返)留今晚守山宿御泊り被遊候事 尚又夜度見廻り候事

※詳しい解説はホームページで！



草津宿街道交流館

東海道と中山道が合流する宿場町の歴史館

観覧料金	大人	高・大学生	小・中学生
個人	200円	150円	100円
団体(20名以上)	160円	120円	80円

毎週土曜日・5月5日は、小・中学生は無料です。

【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)

【開館日】 毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日)

休日の翌日(土・日曜と重なった場合は開館)

〒525-0034 滋賀県草津市草津三丁目10-4

TEL 077-567-0030 FAX 077-567-0031

<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/kusatsujuku/>

Facebook/Twitter:kusatsujuku

JR線でお越しの場合：JR 草津駅東口から徒歩 15 分

お車でお越しの場合：名神栗東 I.C./ 新名神草津田上 I.C. より

国道1号線経由約 15 分

最新情報はホームページ Facebook Twitter から！



- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況により、やむを得ず会期を変更、または中止する場合がございます。
- ・マスクの着用や手指消毒など、感染拡大防止策にご協力ください。
- ・館内でのソーシャルディスタンスを確保するため、一度にご入館いただいたのは19名までとさせていただきます。